雪　月　猫

りきてっくす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪　月　猫

【Ｎコード】

Ｎ０４０７Ｇ

【作者名】

りきてっくす

【あらすじ】

アルコールが抜けたら顔面蒼白……、ヤバイ！ということでタイトル変更しました（笑）

『雪の音』

粉雪、さらさら……
星空も凍る夜に
君の笑い顔を想像してみた

何故だか君は図書室のすみで
ピカソの絵を見て笑ってた

強くなったね、恋人はできたかい？

綿雪、ふわふわ……
野良犬が彷徨く夜に
君の泣き顔を想像してみた

何故だか君は下駄箱の陰で
ラブレターを破いてた

ずるくなったね、人生はつらいかい？

氷雪、きらきら……
幼子が夢見る夜に

君の憂い顔を想像してみた
何故だか君は樫の木の下で
小鳥の死骸を見つめてた
気高くなったね、夢に近づけたかい？

深雪、しんしん……
天使もあくびする夜に
君の寝顔を想像してみた

君に見せたい景色があるんだ……
君に聞かせたい詩があるんだ……

いつかきっと見せてあげよう、聞かせてあげよう
それまで、おやすみ
雪の音に包まれながら……

――――――――――――

『月の音』

銀盤の上に血の杯をのせ
少女は階段を駆けのぼる

地虫が蝶になるように
少女は血によって女になる

僕は、嵐に怯える野兎みたいに
荒野のすみに身をかくす

少女が手招く
僕は首を振る
少女が手招く
僕は首を振る
少女が服を脱ぐ
僕は目を伏せる
少女が手招く
僕は首を振る

少女が僕に魔法をかける
もう、おしまいだ
せめて神様に祈ろう
僕の汚れた血が、彼女の気高い血を汚さぬように

――――――――――――

『とらねこのミーシャ』

とらねこミーシャは、野良猫、宿なし
だけどミーシャは、あたしの恋人
月夜にそっと忍んで来ては

あたしのベッドにもぐり込む
ミーシャの毛なみは柔らかふさふさ
あたしはいつしか夢の中
ミーシャ、ミーシャ
大切な、あたしの恋人
いつまでも、トキメキをちょうだい……

とらねこミーシャは、この街のボス
だからミーシャは、用心棒
今朝も泣いてるあたしを見つけ
いじめっ子たちを追い払う
ミーシャの背中はとっても広く
あたしにやすらぎ与えてくれる
ミーシャ、ミーシャ
大切な、あたしのナイト
いつまでも、あたしを守って……

とらねこミーシャは、ちょっぴりおデブ
すぐに息切れしてしまう
あたしが病気で倒れた夜も
救急車を追いかけて
ミーシャは走るの苦手だけれど
必死にあたしを追ってくる
ミーシャ、ミーシャ
そんなに駆けたらあぶないよ
あたしなら、大丈夫だから……
死んでも、あなたのこと忘れないから……

あたしのミーシャ……
あたしの恋人……

――――――――――――

『私の恋人』

その純白のブラウスに染みついた香の甘ったるさ
接吻したとき感じる生臭いタバコの味
汗、汗、汗……
彼女は今日も働きづめに働く
そして私は座敷でごろんと横になり古本を読む

その鴉羽色のほつれ髪に粘り着くシャンプーの香り
抱きよせたとき感じる尖った鎖骨の固さ
焦り、焦り、焦り……
彼女は日増しに年老いてゆく
そして私は過ぎし日の少年のように彼女に甘える

ああ、時知る雨よ、願わくば彼女がいつまでも恋人たらん事を……
そして私は腐った果実のように堕落する

（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0407g/

雪　月　猫

2010年10月10日03時47分発行